



立教大学

「選択の人類学」としての エスノメソドロジー

コロナ禍における「行動と意志」

EMCA研究会例会 2021年3月20日

立教大学社会学部
是永 論

choice

Richard Harper Dave Randall Wes Sharrock



自己紹介

出身：東京大学大学院社会学研究科**社会心理学専攻**

専門：「情報行動論」として全国サンプル調査に関わる

➤ 直近では「コロナ禍における情報行動」の調査も

情報行動に関する実態調査

2020.12.07 校正

令和3年1月

〔調査企画〕東京女子大学 橋元研究室

〔調査実施〕株式会社 山手情報処理センター

この調査は、新型コロナウイルスと関連して、さまざまなメディアがどのように利用されているのかを明らかにし、それをもとに社会生活の向上に役立てるためのメディア利用を研究することを目的としております。

今回の登壇背景：コロナ禍についての評論

- 是永論「「想像」を脱し、データの現実活用を」
『Voice』7月号 pp.208-13→ウェブ転載
[「「自粛警察」は、他人に配慮しすぎた人たちの成れの果て」](#)
[「“自粛警察”の過剰な妄想を生んでしまった「日本の問題点」](#)
- **要点：**シンボリック相互作用論の「役割取得」の概念から
 - 多くの人々が「想像上の他者」を作り出してそれに（過剰に）反応して行動しているのではないか
 - 「想像」に頼らず、統計等データの活用で「現実」にしたがった行動を取るべき

1. 「選択」としてのコロナ禍

- 「選択」としての問題

- “マクロ”には 感染抑制／経済維持

- “ミクロ”には 自粛／自由

- 「協力／非協力」という行動への焦点化

- 行動の自粛 = 感染抑制への「協力」

“社会科学”からのアプローチ

- 協力関係と「囚人のジレンマ」 (北村・大坪2012より)

表 5-1 囚人のジレンマ・ゲームの利得表

		列プレイヤーの選択	
		協力	非協力
行プレイヤーの選択	協力	2 ($b-c$)	-1 ($-c$)
	非協力	3 (b)	0

(注) b を3点, c を1点として作成したもの。

『日経ビジネス』 2020年3月より (安田洋祐)

• 自分だけあわてずに買い物できるか？

- どちらの消費者にとっても、みんなあわてないのがベスト
- 自分だけ「あわてない」と、何も買えずに損をしてしまう
- みんながあわてて「買いに急ぐ」と品切れが実現する…

まわりがあわてず
に在庫が残るという
「期待」が重要！

どちらも
安定的な状況
(ナッシュ均衡)

		相手	
		あわてない	買いに急ぐ
自分	あわてない	2, 2	1, -1
	買いに急ぐ	-1, 1	0, 0

いつもの均衡 (Red circle around 2,2)

買い占め均衡 (Blue circle around 0,0)

Red arrow points to (2,2)

Blue arrow points to (0,0)

2. 「均衡」としての理解

- 非協力の状態 = 選択の安定化 (ナッシュ均衡)

「悪い均衡」 → 全体の不利益 (社会的ジレンマ)

※ 現実行動の“予測”ではない (*Choice* p.151)

特定の設定における傾向の“列挙” (亀田・村田 2010)

- しかし、しばしば「移行」が問われる (安田でも)

「利他的な均衡」 = **協調**に向かうには？

※ 「状況の定義」 としての協調

- 「役割取得」による理論化 (Scheff 1967a)

→ 「世論の状態」モデルとして流布 (Cutlipほか)

想定上の世論→ 現実の意見↓	「他の人はあわてていない」	「他の人は買いに急ぐ」
「あわてない」方がよい	I 一枚岩の合意 (monolithic consensus)	II 多元的無知 (pluralistic ignorance)
「買いに急ぐ」方がよい	III 合意性の過大視 (false consensus)	IV 意見の不一致 (dissensus)

3. 「道徳性」に向かう“データ科学”

- 協調の行動原理としての**利他性**

- コンピュータ・シミュレーションによる「進化的アルゴリズム」
- 進化心理学における**適応**（生存戦略） など

- （自己利益追求における）**合理性**との対比

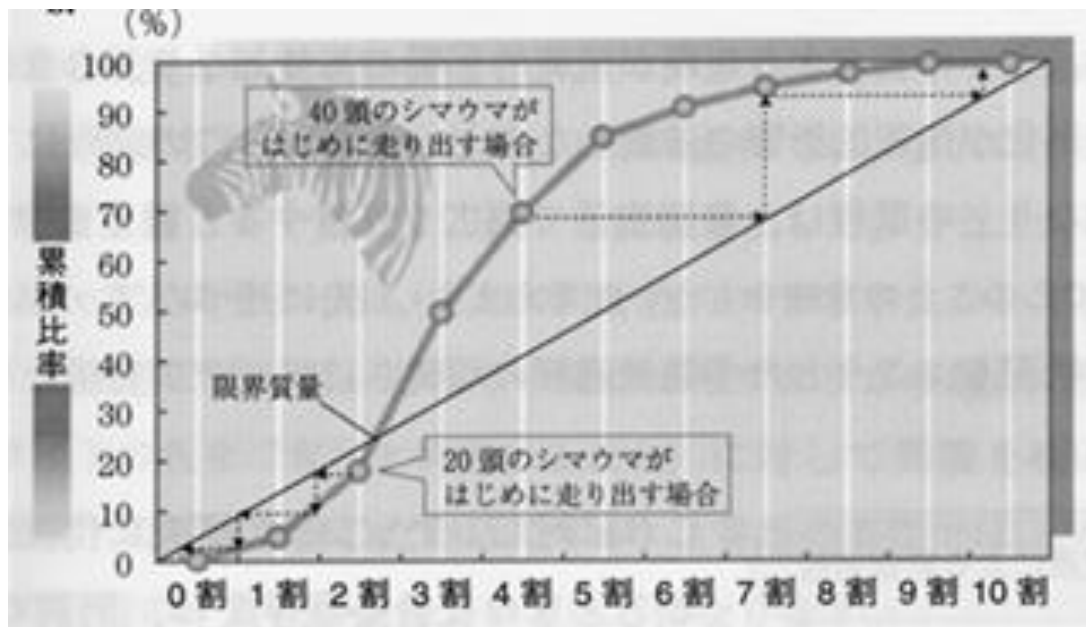
- 他者への同調・利他的であることの**非合理的な意志**
- なぜ“非合理的”に行動するのか？

感情によるコミットメント・モデル（R.フランク） など

3. 「道徳性」 に向かう“データ科学”

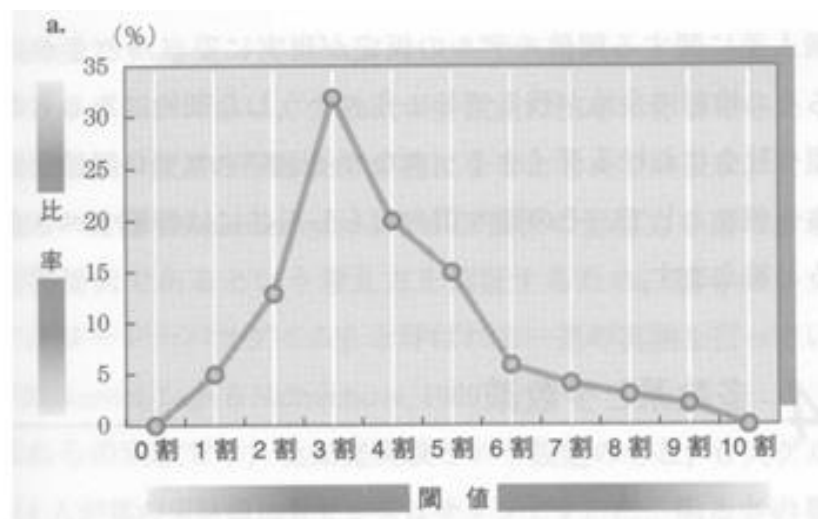
- 「閾値モデル」 などに見られる“内面化”（亀田・村田など）

図：集団の中で特定の行動が“感染”する割合（普及）とその拡大



3. 「道徳性」に向かう“データ科学”

- 「閾値」の想定：何割の行動が“刺激”になるか



- 非合理性としての**道徳性の要因**：脳や遺伝子へ
「進化」概念との結びつき：“多数派”戦略


4 .EMからの視点

- **相互理解**を背景とした協調（状況の定義として）
Scheff(1967b)におけるGarfinkel(1964)の参照

「共通理解が可能となるのは、社会構造について範囲が厳密に想定されている知識を共有しているからではなく、もっぱら日常生活についての〔背後〕期待にそって行為することが、**道徳的なこと**として強制されているからに他ならない」（下線翻訳原著、強調報告者）

- “This is a serious point for research in social psychology”(Scheff 1967b p.222)

4. EMからの視点

- *Choice*から：選択と**理由**の論理的連関の**記述** 
- 「理由の科学は日常の行為における理由から簡単に切り離せるものではない。日常生活の理由に科学を適合させるような理由を見つけ出そうとすることは、こうした日常の理由による解明を抑制しかねない」(p209)
- 「ヴァナキュラーな文脈における理由を、それ自体のトピックとして探求すること」(p213)
- **選択の人類学**へ
- ※外在的な比較や対象に委ねない

5. 「選択」にどう向かうか

① 実験・調査などの“社会科学的な”方法のトピック化

➤ 調査における「標準化」の実践研究の例

(Houtkoo-Steensstra 2000など)

※ 「認識用表示表現」(Sacks)による“トラブル”

1 I : hh あなたと親類関係でない方はそちらに何人住んでいらっしゃいますか？

2 (1.3)

3 R : あー : : その (0.3) マークですよ 一人とね.

4 I : [#

5 I : そうですね. その : あなたのルームメートでした[.hhh ね. それで

6 R : [ええ

※記号 I : 調査者 R : 回答者 h : 笑い # : キー入力の音 [: 会話の重なり.

5. 「選択」にどう向かうか

② 「選択」のエスノグラフィー

➤ 相手に対する選択がどのようになされるのか

※アパレル店員が顧客に接近することの「選択」 (平本 2020)



01 店員：°いい°ですか:>ちょっと<タグしまします↑ね::み(やり)にくいので=

視線 タグ-----, 足元->

動作 ,,,,,,,,,,,,,, 右足を半歩踏み出してタグをしまう,

02 : = °失礼°↑しま::す

視線 ----->

動作 ,,,,,, 右足を引く->

03 店員： °ふんふん° . hhhhh[いいですね:=

視線 ,,,, 肩-----

動作 - 左足をわずかに引く

頷き nod nod



図 2 服を肩にあてる客

5. 「選択」にどう向かうか

③ Membership Categorization Analysis (MCA) として

- カテゴリーの選択において示される道徳性 (是永 2009)

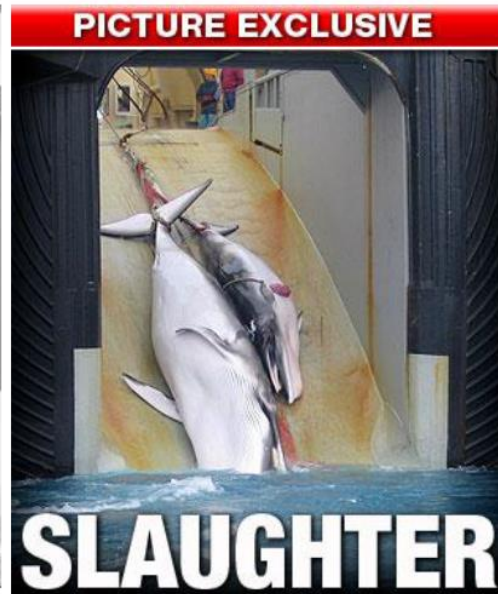
2頭の捕鯨写真で日豪応酬

【シンガポール=杉井昭仁】オーストラリア政府は7日、南極海での日本の調査捕鯨の監視活動をしている豪税関の巡視船が撮影した写真やビデオを公開した。写真は、AFP時事。大小2頭のミンククジラが引き揚げられる映像があり、豪政府は「母と子」だと非難。日本側は「母子ではない」と反論、非難の応酬になっている。

豪政府は、日本の調査捕鯨の監視活動を行っている。ギャレット環境相は「悲しいと同時に気分が悪くなった。科学的調査の名の下で、クジラを無差別に殺していること

は明らかだ」と非難した。調査捕鯨を行っている日本鯨類研究所(東京・森本稔理事長)は、統計学的に正確なデータを集めるために異なる大きさのクジラを捕獲したためで、2頭は親子ではないと否定。「豪政府の発表は危険な感情的宣伝であり、問題をエスカレートさせる恐れがある」と反論している。

◇ 若林農林水産相は8日の閣議後の会見で、「冷静とも思えないコメントが出された。遺憾の意を表明し、冷静に対処してもらいたいと外交ルートを通じて伝える」と語った。



まとめ：コロナ禍において

- 選択の可視化（と不可視化）
「協力／非協力」という二分法に始まる「ゲーム」
- 行動の見方（定義づけ）
「均衡」「閾値」といった記述のもとでの「道徳性」
- EMCAとして
「選択」という実践にある論理的な連関
 - cause（要因）から文脈に固有なreason（理由）へ

文献リスト→[リンク先にて](#)



立教大学

The founding spirit of Rikkyo University is steeped in Christian values of providing a liberal education that nurtures every aspect of the individual. These values continue to be our guiding principle.